

構造チェックリスト — 鉄骨造 —

作成日 (年 月 日)

建築士事務所名		構造設計事務所名	
設計者名		構造担当者名	印
工事名称		工事種別	新築 増築 改築
敷地位置		用途	
規模	地下 階 地上 階 塔屋 階	建物高さ	軒高 m 最高高 m
項目	適用条項	チェック項目	
1 荷重 及 び 外 力	固定荷重	令84	(特記事項のみ記入)
	積載荷重	令85	室の種類 対象 床 小ばり 大ばり・柱 地震 備考 N/m ²
	特殊荷重	令83	*有、無
	積雪荷重	令86	告示1455 行政庁規則 垂直積雪量 cm 単位荷重 20 N/m ² /cm 設計採用値 N/m ²
	風圧力	令82の5 令87 告示109 告示1348 告示1454 告示1458	地表面粗度区分: I、II、III、IV Z ₀ = m Z _G = m α= 基準風速 V ₀ = m/s ガスト影響係数 G _f =
	地震力	令88 告示1388 告示1389 告示1793 令129の2の4 (通)96	1次固有周期 T= 秒 地盤種別による Tc= 地域係数 Z= 標準せん断力係数 C ₀ = 塔屋水平震度 k = 計算書該当ページ (p.) 特記事項
	土圧	令83	土圧を受ける壁に対し K ₀ =
	水圧	令83	地下水位 GL- m 設計採用水位 GL- m
	コンクリート	令72 令74 令91 令97 告示1102 告示1450 告示1462	普通コンクリート F= N/mm ² 単位重量 γ= kN/m ³ 使用場所 軽量コンクリート F= N/mm ² 単位重量 γ= kN/m ³ 使用場所
	2 使用 材 料	鉄筋	令90 告示2464
鉄骨		令96 告示2464	SS400 SS490 SM400 SM490 SN400 (A B C) SN490 (B C) STKR400 STKR490 BCR295 BCP235
高力ボルト、ボルト、リベット		令92の2 令96 告示2466 告示1451	高力ボルトS T 高力ボルトF T 中ボルト その他:
特殊材料			柱脚: その他:
3 地盤 の 許 容 力 支 持 力	地盤調査	令93 告示1113	敷地内地盤調査 有(深さ m) *無 支持層の土質 調査方法 () 設計採用N値
	許容応力度	令93 告示1113	基礎深さ GL- m 計算上の採用 D _f = m 長期= kN/m ² 、短期= kN/m ² 地盤改良 有(工法:)、無
	くい仕様	令93 告示1113 (通)806 (通)2	くい種 最大軸径 cm 最大先端径 cm くい長 m 施工法 支持力(最大径) 長期: kN/本 短期: kN/本 *引抜抵抗力 kN/本 負の摩擦力検査 *有、無
4 基 礎	形式	令38 告示1347	独立基礎 ベタ基礎 布基礎
	偏心	令38	偏心基礎 有、無 有のときの処理方法
	異種沈下	令38	異種基礎の併用 *有、無 (原則として異種基礎の併用は避ける) 沈下に対する検討 省略 即時沈下 圧密沈下
5 構 造 計 画	構造計画		計算書該当ページ (p.) 特記が有れば記載
	増築予定		増築予定 *有、無 増築後 階、高さ= m
	計算仮定	令66 告示1456	柱脚の固定度 固定 弾性固定 ピン 剛床仮定 *有、無
	主架構材料		形状 柱: 大梁: 最大板厚 t= 最小板厚 t= 市場調査
	鉄骨被覆	令70 告示1356	防火被覆 *有、無 耐火被覆 *有、無
	エキスパンション	令81	エキスパンションジョイント: 有(cm)、無 基礎: 一体、分離
	水平力の配分	令36の2 令82	精算 D値法 *その他 水平力の伝達方法・ブレース・合成床板・その他 梁 D/L>1/15 床 t/Lx>1/30 片持床 t/Lx>1/10 D/L≤1/15 (P.) t/Lx≤1/30 (P.) t/Lx≤1/10 (P.)

令……建築基準法施行令 告示……国土交通省告示 (通)……建設省旧通達 大阪府内建築行政連絡協議会 編集 (社)大阪建築士事務所協会

(注) 1. 必要項目は書き入れを、選択形式のものは該当する箇所にチェック後○印を記入してください。
2. *印項目記入の際は、その内容を構造計算書に明記してください。

2003年度版

項目	適用条項	チェック項目			
6	電算機の利用 (通)202	プログラム名:	基本計算	応力計算	断面算定
一 次 設 計	7	解析方法	立体解析	疑似立体解析	その他:
	7	鉛直荷重時	令82	剛域考慮 *有、無	
	7	水平荷重時	令82	フェースモーメントの採用 *有、無	1階反曲点高さ比 y=
	8	許容耐力		座屈長さの補正 *有、無	fbの検討 fcの検討
	8	細長比	令65	柱: λ≤200・柱以外λ≤250・素材λ≤50・ラチスλ≤160	
	8	梁算定位置		柱面・ハンチ端・継手部・中央部での検討	
	8	柱断面		2軸方向曲げの検討	形状: 型 カバープレート *有、無
	9	仕口方法	令67 告示1464	高力ボルト 溶接	ボルト *その他 溶接と他接合法の併用 *有、無
	9	継ぎ手方法	令67 告示1464	高力ボルト 溶接	ボルト *その他 溶接と他接合法の併用 *有、無
	9	仕口	令67 告示1464	パネル部分の検討	スチフナーの検討 溶接仕様の検討
二 次 設 計	9	溶接施工	令92 令98	溶接施工性考慮	検査方法: 現場溶接 *有、無
	9	ボルト・高力ボルト	令92の2	ボルトの使用範囲規制	孔径・ピッチ・縁端距離 引張、せん断の併用 *有、無
	9	柱	令66 告示1456	露出柱脚	根巻柱脚 埋込柱脚
	9	屋根及び床		使用材料:	主架構との接合方法:
	10	曲げモーメント		処理方法	地中ばり 基礎
二 次 設 計	10	水平力		処理方法	接地圧 側面土圧 くの水平抵抗 斜ぐい
	10	引抜き力		基礎浮き上がり *有、無	有のときの処理方法:
	11	電算機の利用	(通)202	プログラム名:	
	11	算出方法		荷重増分法 変位増分法 節点振分法 仮想仕事法 その他()	
	11	筋かい		境界ばり効果 直交ばり効果	基礎の回転
二 次 設 計	11	必要保有水平耐力	令82の4 告示1792 告示1450 告示1451 告示2464 告示2466 (通)96	Ds : 計算書該当ページ (P.) 最大値: X方向 (階)、Y方向 (階) Fes : 計算書該当ページ (P.) 最大値: X方向 (階)、Y方向 (階) Qun : 計算書該当ページ (P.) Qu : 計算書該当ページ (P.) Qu/Qunの最小値: X方向 (階) : Y方向 (階)	
	11	保有水平耐力			
	11	保有水平耐力			

